



實性

令和三年 第一号 お正月発行



住職 画

令和三年の新春を迎え、謹んで至心に篤い三宝を誦し、併せて檀信徒各位のご平安を祈念申し上げます。特に新型コロナウイルス退散・終息を御本尊阿弥陀如来様に改めて御祈願致します。



住職	松野 大英
副住職	松野 大樹
筆頭総代	遠山 長昭
法類	総代 一同
寺族	大谷 忍昌
	松野 弘美

修正会

一年の心願成就・家内安全・無病息災・三界万霊回向等を阿弥陀様にお願ひ致します。

恒例の「修正会」(毎年一月三日厳修)は、新型コロナウイルス諸事情により檀信徒各位にご案内しないこととなりました。

当日は、住職・副住職にて通年通り法要を致します。

❖お札・絵馬・土鈴・交通安全ステッカー等は、ご用意しておりますのでご一報下さい。



丑 歳

本年は丑歳、辛丑歳平年、昭和以来九十六年、平成以来三十三年、仏暦（お釈迦様が亡くなられてより）二五六四年、そして御題は「実」です。

丑歳にまつわる物事の諺をいくつかあげます。

- 一、牛に引かれて善光寺参り
 - 一、牛の歩みも千里
 - 一、牛売つて馬買う
 - 一、丑三つ時には草木も眠る
 - 一、牛を桃林の野に放つ
- 等数多くありますが、仏教でいう「十牛」をご紹介します。



「十牛」とは、悟りに至る十の段階を十枚の図詩で表したものです。真の己が牛の数で表されるため「十牛図」といいます。又、己を求める自己は牧者（牛飼）の姿で表されています。

- | | |
|------|--------|
| 一、尋牛 | 六、騎牛帰家 |
| 二、見跡 | 七、亡牛存人 |
| 三、見牛 | 八、人牛俱忘 |
| 四、得牛 | 九、返本還源 |
| 五、牧牛 | 十、入鄺垂手 |

一、尋牛

仏性の象徴である牛を見つけようと発心したが、牛は見つからない。

二、見跡

経や教えによつて仏性を求めようとするが、分別の世界からはまだ逃れられない。

三、見牛

行においてその牛を身上に実地に見た境位。

四、得牛

牛を捉まえんとしても、それを飼ひ慣らすのは難しく、時には姿をくらます。

五、牧牛

本性を得たならば、そこから真実の世界が広がるので、捉まえた牛を放さぬように押さえておけば、牛は素直に従うようになる。

六、騎牛帰家

心の平安が得られれば、牛飼いと牛は一体となり牛を御する必要も無い。

七、亡牛存人

家に戻つてくれば、牛を捉まえてきたことを忘れる。

八、人牛俱忘

牛を捉まえようとした理由を忘れ、捉まえた牛を忘れ、捉まえたことも忘れ、忘れるということも無くなる世界。

九、返本還源

何も無い清浄無垢の世界からは、ありのままの世界が目に入る。

十、入鄺垂手

悟りを開いたとしても、そこに止まっていれば無益。再び世俗の世界に入り人々は安らぎを与え、悟りへの導く必要がある。

十牛図



一、尋牛



二、見跡



三、見牛



四、得牛



五、牧牛



六、騎牛帰家



七、亡牛存人



八、人牛俱忘



九、返本還源



十、入廓垂手

嵯峨面

浄土宗特別寺院・京都・清涼寺に伝わる、嵯峨狂言に使われた面を復刻した民芸品です。古い和紙を使い、趣のある面です。



伏見焼

京都伏見稲荷に伝わる焼物で、現在ただ一軒のみ残る土物の人形です。客間の床の間に飾っておりますので、「嵯峨面」ともどもご覧下さい。



秋季彼岸会報告

令和二年九月二十二日（お中日）十時より秋季彼岸会法要が厳修されました。

「施餓鬼法要」同様に新型コロナウイルスの為、時間を定めず法要を行いました。

御本尊様をお参りいただき、お焼香してお塔婆をお持ちいただきました。

感謝録

ご法要、又ご参詣のうちに御奉納賜りました御仏具料、平成三十年・三十一年・令和二年を合わせた貴重な財にて、客殿の襖を張り替えさせていただきました。

大襖十六面、三六襖二面、腰襖六面 です。

以前の襖の色（白茶）よりも濃い鼠色の仕上がりです。半年前より襖の刷りに入り今般仕立て上がりしました。とても貴重で高価な品です。

紋は以前と同じ当山ゆかりの「三葵」と浄土宗の宗紋「月影杏葉」です。ご参詣の折、ご覧下さい。



月影杏葉紋

三葵紋

年間行事

令和三年度

- | | |
|--------------|--------------------|
| 一月 三日 (日) | 修正会 |
| 二月 十五日 (月) | 涅槃会 |
| 三月 二十日 (土・祝) | 春季彼岸会回向 |
| 四月 八日 (木) | 花まつり |
| 五月二十二日 (土) | 施餓鬼会 |
| 七月 三日 (土) | 七夕・蓮見の会 (茶室にて抹茶拝服) |
| 七月 十一日 (日) | 迎え盆・七月盂蘭盆会回向 |
| 十六日 (金) | 送り盆 |
| 八月 十三日 (金) | 迎え盆・八月盂蘭盆会回向 |
| 十六日 (月) | 送り盆 |
| 九月二十三日 (木・祝) | 秋季彼岸会回向 |
| 十一月 吉日 | 實性寺寄席 |



仏具料とは

皆様からご奉納いただいております「御仏具料」とは御法要時の「御布施」とは異なります。

御本尊様仏具、御本堂、客殿、境内それぞれの整備のためにお納めいただいたものです。

仏具、お衣、お袈裟などの品々を御奉納いただくこともございます。これらを感じ録として掲載させていただいております。皆様からの「御布施」は、公表いたしておりません。「御布施」とは異なりますので何卒ご理解下さい。



實性寺 茶道教室

茶室路地を借景にした書院での飾り



客殿床の間飾り

毎月五回實性寺茶室にてお稽古しております。(水曜日・土曜日)
お気軽にお遊びにいらしてください。
見学も自由でございます。

釜 天貓





境内の花

紅葉

梅

西王母

どうだんつつし

新型コロナウイルス

三密を避ける為に各種の行事・会合等が延期、中止、縮小を余儀なくされています。寺の行事等は、いかに濃密に親しくというのが本来であろうと存じます。

これら疫病が終息しますように、疫病終息の祈願の旗・疫病退散アマビエの旗、絵馬をかかげお祈りしています。



●ご法要等のお塔婆を建立される方は、遅くても十日前迄にお申し込み下さい。お電話よりファックスの方が正確ですのご利用下さい。

ファックス番号 03(3883)3227

振替口座 00190-6-258873

※振込用紙をご入用の方はお申し出下さい。

〒121-0061 東京都足立区花畑三十七-十八
電話 03(3883)8866

浄土宗 實性寺

<http://www.jisyoji.com>